

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：林 由里
(松江市立美保関中学校)

編集：広報部

VOL.39 2010.8.8(夏祭り号)

発行責任者 川本中学校 福井義信

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ┆新たな10年のスタート(会長)
- ┆特集「共同実施」(江津市の取組)
- ┆全事研 分科会テーマ決定
- ┆「子どもたちの声に耳を傾けて」
- ┆小・中学校事務職員研修体系
- ┆前会長あいさつ
- ┆事務歳時記
- ┆教育環境充実という視点で
- ┆島事研アクションプラン
- ┆まんが「フーちゃん」
- ┆編集後記



新たな10年のスタート

会長 林 由里

6月3日代議員会に於いて会長に選出されました、林由里です。

学校事務の研究、事務職員制度の確立、会員の資質の向上を行うことで島根県の学校教育に寄与することを目的に1970年8月に設立された島事研は、今年8月に40周年を迎えます。物質的豊かさや情報化の進展等、この40年の社会の変化は非常に大きく、私たち事務職員の仕事も様変わりしてきました。島事研の活動を振り返りますとその時代、時代に対応した学校事務の研究、事務職員の研修、事務職員制度の検討などを行ってきています。この40年の活動の蓄積で得たものを糧とし、41年目となる今年度、今の時代の学校のあり方から、私たち事務職員の役割を探ることで、島事研の存在する意義や果たすべき役割を考えていきたいと思えます。また新たな10年のスタートに向け、昨年来準備した下記の四つのことをスタートさせました。装いを新たに気持ちを新たに、会員の皆様とともに新しい学校事務を、新しい学校事務職員のあり方を考えたいと願っています。

1. 島事研ビジョンの活動計画がスタートします。
2. 第4次研究中期計画がスタートします。
3. 時代にふさわしい新しいロゴマークを使用します。
4. 略称を ” 島事研 ” とします。



島事研の課題

島事研ビジョンにもありますように、多くの課題がありますが喫緊の課題として急激な世代交代があげられます。現在島根県の学校事務職員の半数が50代です。一方数年前より毎年十数人の新規採用が行われています。10年も経過しないうちに半数が入れ替わるのです。このことによって学校事務の質の低下がおきないような様々な場面での取組が必要です。島事研では昨年、県の教育センターと話し合いを進め、しっかりと目標を持った事務職員の育成をお願いし、島事研として考える研修体系の提案を行いました。今年度より事務職員の研修内容の充実が大きく図られました。研究大会・セミナーなど島事研の事業を展開する上でも若年層を考慮しながら検討していかなければなりません。また、事務グループ活動の普及充実も経験年数の少ない事務職員の支援・OJTには欠かせません。そのための情報の収集・提供とHPの充実を進めてまいります。

新たなスタートと課題山積、取り組むべきことは数多くありますが会員の皆さんの協力を得ながら、役員が協働しチームで取り組んでまいりたいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



江津市の共同実施の取り組みについて

川波小学校 前原明李

江津市は平成20年度より川波小学校を拠点校に共同実施の研究指定を受け、今年度で3年目になります。

市教委から指定の連絡があったのは、前年度の3月末でした。「数日後には加配の事務職員も来られる」ということでしたので、息つく間もなく初年度がスタートしました。

その上、4月になってから市内事務職員に連絡されましたので、研究形態も市全体で行うのか、川波小学校近隣の市教研の西部地区で行うのかが決まるのも遅く、5月に入ってやっと共同実施の研究が始まりました。

江津市は以前から「1日事務室」の形態で市内全事務職員が一同に会し研究や、研修を行っていましたの

で、集まって仕事や研究をする形態についてはそれほど違和感はありませんでした。しかし、研究指定を受け研究するとなるとそう簡単にはいかないだろうと思いつつながら研究に取り掛かりました。

ここで西部グループ（小学校4校・中学校1校）の状況を説明しますと、学校規模も様々で、これらに在籍する事務職員の経験年数にもかなりの差異がありました。

児童生徒数	吉陵中	291人	跡市小	22人
	有福温泉小	15人	川波小	109人
	津宮小	387人		
事務職員経験年数	10年未満	1人	10～20年	1人
	20～30年	1人	30年超	2人

これまでの取組の内容

研究指定を受けた平成20年度はまず、「何を中心にして共同実施を進めていくのか」ということで、先進地の資料を集めたり、先進校（鳥取県琴浦町立東伯中学校）を視察するなどして、時間をかけ協議しました。その結果、次の3つの柱を立て研究を進めていくことが決まりました。これらが決まったのが2学期の中頃でした。

《 重点目標 》

- ①公費外会計についての研究を通して、公費外会計の事務の適正化を図る。
- ②学校事務のシステムの共通化・共有化を図り、ネットワーク環境の整備による事務の効率化を図る。
- ③若年層や、臨時的任用職員に対する職場内研修を行う。

続いて2年目からは、共同実施連絡協議会に拠点校の管理職（主に教頭）が出席し、具体的研究を進めてきました。それと共に西部地区の学校に共同実施の状況を理解してもらうため、それぞれの学校を順番に回り、各校の校長の話を聞き、時間が許せば研究にも参加いただきました。

初年度は月に1回の半日の集まりでしたが、研究の深まり等を考えると間が空きすぎているという事で、月に2回の集まりにしました。

また、その都度とっていた記録を、今年度より各学校で校長へ提出し共同実施への理解を図っています。

今後の課題

ネットワーク環境の整備

- ▶教職員へのコンピュータの配備や、市内小中学校のネットワークはされておらず、情報化への研究はなかなか進みにくいところです。

加配者について

- ▶平成20、21年度と別々の臨時職員の加配であったため、他校の支援等が十分に出来ませんでした。
- ### 市教委との連携
- ▶市との連携がうまく出来ておらず、今後の研究の課題として残されています。

最後に

西部地区で共同実施の研究を進めてきましたが、今年度より事務リーダーを中心とした事務グループの活動として県から指導がありました。新たな展開の中で、西部地区が進めてきた研究の成果を他の2地区へ示しながら、事務グループ活動の活性化を図っていこうと考えています。そのためにも「事務グループ運営実施要綱」の策定は必要と考えております。市教委を中心とした体制を整えていただき、特色ある学校づくりの推進や、教育の質を高める基盤となる事務・業務の効率化、適正化を目指していきたいと考えています。



すべては子どもたちのために

江津市立川波小学校

校長 勝部 久子

平成20年3月末、事務職員の加配連絡を受けてから、手さぐりでスタートした学校事務共同実施です。きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援のため事務部門の強化のための加配を受け、本校を拠点校に、青陵中学校区の小中学校5校が連携して取り組んできました。その間、事務職員の交代があったり環境の整備は進まなかったりと、思うような展開ができなかったこともありましたが、反面、本グループのメンバーが市内の小中学校の1/3に当たるため、市内の事務部会と密接に連携できたことは幸いでした。

3年目を迎えた今年度は、国の加配制度を活用して「学校事務グループの活動充実を図る」ということで島根県の加配主旨も変更がなされたところです。

これまで「共同実施グループ内の相互協力体制作り」「学校間のネットワーク化」「学校財務システムの活用と事務の効率化」等について、研究を続けてきました。月1～2回のペースで、各校を会場に連絡協議会を開催し、それぞれの学校の実態と課題、事務職として個々の課題意識も明らかにしながら、適正化・効率化をはかる研究協議を重ねました。また、こうした実践を重ねる中で、事務職員一人一人の意識改革・能力向上につながったり経験の浅い人をみんなで支えていこうという体制ができたりと、熱い思いが基盤となり温かで確かな人のネットワークができていきました。

子どもを取り巻く環境の変化、学校教育の担う役割の広範化、社会の情報化などにつれて、教員だけでなく学校事務職員も含むすべての教職員の多忙化・多忙感が増しています。このような状況の中で、学校運営にとって学校事務にはますます大きなウェイトがかかっています。

今後、学校事務グループの活動充実を図ることで、これまでの研究をさらに深め、学校運営に生かされるよう取り組んでいきたいと思えます。

すべては 子どもたちのために・・・

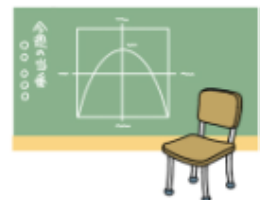


学校事務の共同実施に関わって

江津市教育委員会

学校教育課長 松田 明信

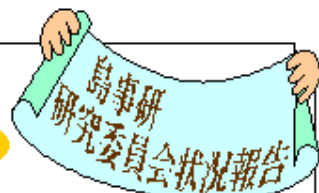
きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援等のために事務部門の強化を図ることから、平成20年度に、市内西部にある1中学校、4小学校による「学校事務共同実施連絡協議会」が発足し、3年目を迎えております。5校の学校事務職員の皆さんを主体に、この協議会が月1回以上開催され、それぞれの学校における事務処理の問題点等について情報交換が行われ、現状についての把握、効率的な事務処理を行うための研究・実践などが行われています。それにより、学校財務システムの作成、活用ができ、教員の事務負担の軽減がなされるなど成果も上がってきています。教育委員会としましても、学校事務の効率化・合理化に向けて様々な環境整備を図りつつありますが、十分な整備ができていない現状であります。今後は、事務グループ活動の充実のため、また、全校区に普及を図るためにも、さらに、学校事務職員の皆さんと連携を深め、教育委員会側の事務手続きの見直しなど、学校管理者も含めた協議会を開催しながら、学校関係者の共通理解のもと、学校事務の効率化に向けた取り組みを、なお一層進めていく必要があると考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



第43回全事研大会（鳥取大会）鳥根支部担当 分科会テーマ決定！

“動き出せ！新しい「学校づくり」へ！”

～教育課程づくりへの参画を通して～



井田小学校 山本一希

研究委員会発足から2年。いよいよ第43回全事研大会（鳥取大会）まで残すところ1年となりました。

島事研の第4次研究中期計画に沿って、さらに鳥取大会のテーマ『教育課程の実施と学校事務』に迫るべく研究を進めています。教育課程の実施や、教育課程づくりと学校事務職員の関わりの有効性について考えます。そのうち、『学校財務』からの働きかけと、共同実施組織としての『つなぐ役割』を例として分科会発表を考えています。

学校財務

教育には経費が伴う。そこで子どもの学びを保障するために事務職員には学校の予算を総合的にマネジメントする能力が必要である。このことは、学校に限らずどの組織でも運営機能として必ずあるものであり、誰がどのような立場でどのように行うかの違いだと思うが、学校では現在事務職員の大きな使命である。学校全体を視野に入れ、教育課程実施のために教員といかに協力し、経費を視野に入れた「学校づくり」ができるかを探る。

地域連携

学校事務職員の立場から、教員やサポートスタッフ等、学校で働く全ての職員、また、教育委員会をはじめとする機関や、学校に関わる多くの人たちとの関係における新たな展開としての学校事務の機能を考えた。その中で学校の外、特に『地域』との関わりに注目したい。学校に配置される様々な職種の人たちをつなぐ役割はもちろんのこと、講師やボランティア等として応援してくれる地域住民や、学校支援に関わる人たち、つまり学校外部の人たちと学校をつなぐ役割としての今後の可能性を考える。

詳細については、県大会の折に中間報告を行います。また、県大会では島事研の研究として会員の皆様にも一緒に考えていただき、たくさんのご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。



子どもたちの声に耳を傾けて

来待小学校 渡部 美静

甥が小学校に入学して、一学期が終わった頃、突然私に向かって、こんなことを言いました。「オレ、学校で一つだけいやなことがある。」「女子が便所をのぞいてみるけん？その後、甥の通う小学校に行った時にトイレに行きました。男女トイレの入口が一緒なので、入口から男子トイレの便器は丸見えです。女の子はトイレを覗いたわけではなく、自然に見えてしまう構造です。その小学校は古い学校で、その時代には普通の設計だったのだと思います。入口にせめてカーテンがあればと思っても、よその学校の子の「やだやだ」もありません。

施設に関して子どもたちにアンケートをしたことはありましたが、転動した時に、やる勇気がなくてやめていました。しかし、甥の言ったことは頭のどこかに引っかかっていた。一年生でもいろんな思いを持っている。その思いを受け止めて一つでもかなえてあげられたらという気持ちも後押しして、再びアンケートを行うようになり、来待小学校でも昨年から行っています。

先日、今年もアンケートをしようと、職員会で提案し、実施することになりました。ところが、その翌日、用紙をまだ刷っていない時に、教育相談週間で子どもたちに相談の手紙を出すように配られた紙に、私に宛てた内容の手紙があったからと担任から渡されました。去年は一枚もなかったのに何故？と思ったら、「書くことのない人は何でもいいと言ったら、施設の要望を書いていた。」という担任からの話でした。「トイレがくさいから良くしてほしい」が半分でした。あゝこれも難問。職員間でも話題になっているので、簡単にできれば直していただけますか。なかなか解決できません。マイナス思考に陥る時もあります。その時には原点を思い出します。子どもたちの声に、きちんと耳を傾けるように。



小・中学校事務職員研修体系が示されました!!

★島根県教育委員会が実施する研修	
必修研修	●新規採用研修 (今年度9日間実施 4/1・5/17～19 8/3～6・11/18) 公立学校事務職員としての自覚と意識の確立を図り、業務上必要な基礎的知識や技能を習得し、職場への適応能力を養う 内容：①教職員の服務について ②接遇と社会人としての心構え ③教育行政の概要について ④教職員の給与・手当制度について ⑤教職員の旅費制度について ⑥人権・同和教育について ⑦先輩職員から学ぶ「仕事の進め方」 ⑧情報セキュリティと情報モラル ⑨文書事務について ⑩アサーティブな自己表現について ⑪意見交換(これまでのふりかえり)
	●主事研修 (今年度8/23 実施) 1年の学校の流れを経験した上で、あらためて事務職員としての意識の確立を図り、行政職員としての知識の習得と働きへの意欲付けを行う。 内容：①法律の基礎と教育法規について ②情報公開と個人情報保護について ③職場とコミュニケーション ④意見交換(これまでのふりかえり)
	●新任主任主事研修 (今年度は実施されません)
	●新任主任研修 (今年度は実施されません)
	●新任事務主幹研修 (今年度8/19～20 実施) 学校事務の専門職として専門的知識の確立を図り、学校運営の企画立案に参画できる各種マネジメント能力を身につける。 内容：①事務主幹の職務について ②人権・同和教育について ③県の教育施策について ④グループ討議 ⑤演習：学校の危機管理 ⑥演習：組織マネジメント等について
	●新任事務リーダー研修 (今年度8/10～11 実施) 事務グループ内の業務のマネジメントを行い、グループ内の事務職員の指導育成を行うためのリーダーとしての資質を磨く。 内容：①事務リーダーの職務について ②地域との連携 ③中央研修の発表 ④グループ討議 ⑤講話：センター所長 ⑥事務グループの充実について ⑦県の教育施策について ⑧学校経営論
●主幹研修 ●事務リーダー研修 (8/11 松セ 8/12 浜セ) 事務グループ内の業務のマネジメントを行い、グループ内の事務職員の指導育成を行うためのリーダーとしての資質を磨く。 内容：①講話：センター所長 ②事務グループの充実について ③県の教育施策について ④学校経営論	
選択研修	●教育課題 ：○学校組織マネジメント講座 ○人権・同和教育講座 ●教育の情報化 ：○デジタル画像入門・実用講座 ○ホームページ作成講座 ○学校情報セキュリティー講座 ○教育評価・分析(教育学)講座 ○表計算入門・実用講座 ●教育相談 ：○学校教育相談臨床講座 ○教育相談担当者等連携実践講座 ○教職員の心の健康ケアに関する講座 ○小学校児童理解と支援講座 ○組織力を高めて取り組む生徒指導実践講座 ○不登校の理解と支援講座 ○保護者との良好な関係づくり講座 ●未定
	●法務能力 ：○知っておきたい法律の基礎講座 ○民法入門講座 ●業務遂行能力 ：○チーム力強化講座 ○会議運営スキルアップ講座 ●対人能力 ：○プレゼンテーション講座 ●政策形成能力 ：○創造性開発講座 ○住民協働の政策づくり講座
	★その他の部局が実施する研修 ●県外研修・中央研修 ●その他
	★市町村教育委員会・研究団体等が実施する研修 ●市町村教育委員会が行う研修 ●研究団体が行う研修 ●校内研修



長い間、ありがとうございます

顧問 立藤 渉

今年度、会長の職を引きました。在職中に支えていただいた役員の皆様、ご理解、ご協力をいただいた会員の皆様方に心から感謝いたします。

さて、昨年は節目の第四十四回研究大会を終えました。これまで使用していた島事研のマークも公募により新しくなりました。また、島事研ビジョン、第四次研究中期計画を提案し、策定しました。今年度はこれを実践、実行することになります。

しかし、島事研と市郡が一体となってひとつの目標に向かっていけないところが以前からの課題でした。組織としては、市郡から理事を出して理事会を構成し、島事研の会務を執行することになっていきます。ところが、研究活動になると市郡(町村)と一体的に取り組めないというところがあります。現在の島事研の役員の方々はこうした課題解決のための取組みを進められています。是非、新たなスタートを踏み出した島事研と歩みをともにしていただきたい。

今後、世代交代が年々加速していきます。視野を広く、島根の学校事務を展望しながら研究会が一体となる必要があります。私も新しい顧問という職をいただきましたので尽力したいと思っております。

最後になりますが、事務局長、会長と二十六年間に十名の方が現職で亡くなっておられます。

先月は、共に「県事研」を維持してきた故門 脇陽治さんの七回忌でした。心からご冥福をお祈りいたします。合掌。



事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

新学期 新教室に 新担任

それぞれ遠征して、いよいよ新学期が始まる。今日からは新しい教室に入ることに。旧担任がやってくる朝礼をするが、始業式で新しい担任が発表となる。持ち上がり学年は残念なのかうれいいのか、去年と同じ担任である。



夏めいて 校歌をこそ一一年生

今年入学した新一年生も、一か月が過ぎて少し学校に慣れてきた頃である。緊張の日々も過ぎ、元気な声で毎日生活しているのがうかがえる。毎朝歌う校歌も、そこそこ歌になってきた。これから六年間、何かにつけて歌うことになる。

少女らの 二の腕白き 衣更

衣更その季節になってきた。制服が決まっていな学校では、上履きが変わるくらいで、着ている服だけではどこが変わったのかよくわからない。ただ、半袖から伸びるこの腕あたりはまだ白く、見ているこちらには少し肌寒く感じられる。

夏休み 子どもの頃に 戻りたい

いよいよ待ちに待った夏休みである。これから四日間、何をして遊ぼうか楽しみである。蝉取り、海水浴、魚釣り、納涼花火、盆踊り、どれも懐かしい夏の風物詩である。今やそんな子どもを見かけなくなった。子どもの頃に戻りたい。



～ 教育環境充実という視点で ～
大和小 石川 大介

昨年12月8日付で島根県教育委員会より『就学を支える制度についての適切な情報提供について（依頼）』の文書が配布されました。～就学資金に関する情報を直接保護者に伝える機会を確保すること～ と記載されています。

いま、新教育課程に向けて、それぞれの地域で、『教育課程づくりの参画』について研究をしたり、実践されたりしているところだと思います。

まさにその原点は未来を担う子どもたちへの想いであり、大きい視点でみると、**教育環境の充実**にあたっての私たちの役割だと思います。

その視点からすると先に述べた、就学を支える制度の情報提供もとても大事な役割ですよ！

- 就学援助制度
- 公益信託カトリック・マリア会・セント ジョセフ奨学育英基金
- 加藤山崎教育基金 などなど。（返還なしの給付制度）

担任や担当と連携しながら、積極的に動く！
その原点は、未来を担う子どもたちへの想い！
であるからこそ！



島事研アクションプラン 教育課程に習わる一つの方法として
 「授業を見に行こう!!」: 5分でも見てみよう。「教材備品はどう稼立っているのかな？」
 「財務マネジメント力の向上!!」: 「財務クイズ」に何かアクションを起こしてみよう。

【編集後記】 先日、韓国アカズリを初体験しました。自分にこんなにもたくさんアカがたまっていたとは…。恥ずかしさ半分、驚き半分。体もですが、長年たった心のアカもしっかり洗い流してもらったようで、まるで生まれ変わった気分です。41年目を迎える島事研と同じ歩みの私も、今がリニューアル時期。新たな10年のスタートです。 K・S



Vol. 16
おたん
Nice to meet you!!



原作:千葉ひろみ 画:大橋幸子